

第132回エイズ動向委員会

委員長コメント

《平成24年第4四半期》

【概要】

1. 今回の報告期間は平成24年10月1日～平成24年12月30日までの約3か月
2. 新規HIV感染者報告数は257件（前回報告273件、前年同時期294件）
そのうち男性246件、女性11件で、男性は前回（259件）及び前年同時期（274件）より減少、女性は前回（14件）及び前年同時期（20件）より減少
3. 新規AIDS患者報告数は114件（前回報告111件、前年同時期106件）
そのうち男性107件、女性7件で、男性は前回（104件）及び前年同時期（94件）より増加、女性は前回（7件）と同数、前年同時期（12件）より減少
4. HIV感染者とAIDS患者を合わせた新規報告数は371件

【感染経路・年齢等の動向】

1. 新規HIV感染者：
 - 同性間性的接触によるものが184件（全HIV感染者報告数の約72%）
 - 異性間性的接触によるものが45件（全HIV感染者報告数の約18%）
そのうち男性35件、女性10件
 - 静注薬物によるものは1件
 - 年齢別では、20～30代が多い。
2. 新規AIDS患者：
 - 同性間性的接触によるものが62件（全AIDS患者報告数の約54%）
 - 異性間性的接触によるものが30件（全AIDS患者報告数の約26%）
そのうち男性24件、女性6件
 - 静注薬物によるものは0件
 - 年齢別では、40歳以上が約61%であった。

【検査・相談件数の概況（平成24年10月～12月）】

1. 保健所におけるHIV抗体検査件数（確定値）は26,597件（前回報告24,484件、前年同時期28,627件）、自治体が実施する保健所以外の検査件数（確定値）は7,223件（前回報告6,924件、前年同時期8,256件）
2. 保健所等における相談件数（確定値）は37,321件（前回報告37,029件、前年同時期44,239件）
保健所等におけるHIV抗体検査件数及び相談件数は前回より増加した。

【献血の概況（平成24年1月～12月）】

1. 献血件数（速報値）は、5,271,103件（前年同時期速報値5,252,182件）
2. そのうちHIV抗体・核酸増幅検査陽性件数（速報値）は68件（前年同時期速報値89件）
10万件当たりの陽性件数（速報値）は、1.290件（前年同時期速報値1.695件）

《まとめ》

1. 前回に比し、新規HIV感染者報告数は減少し、新規AIDS患者報告数はほぼ横ばいであった。
2. 早期発見は個人においては早期治療、社会においては感染の拡大防止に結びつくので、HIV抗体検査・相談の機会を積極的に利用していただきたい。

《平成24年 年間報告（速報値）》

【概要】

1. 今回の報告期間は平成23年12月26日～平成24年12月30日までの約1年（四半期ごと速報値の合計）
 2. 新規HIV感染者報告数は1,001件で過去6位
 3. 新規AIDS患者報告数は445件で過去3位
 4. HIV感染者とAIDS患者を合わせた新規報告数は1,446件で過去6位
- ※これまでの最高は、平成20年（確定値）でHIV感染者は、1,126件、AIDS患者431件、合計1,557件。

【感染経路・年齢等の動向（速報値）】

1. 新規HIV感染者：
 - 同性間性的接触によるものが718件（全HIV感染者報告数の約72%）
 - 異性間性的接触によるものが182件（全HIV感染者報告数の約18%）
 - 静注薬物によるものは5件（ほか、その他に計上されているものが11件）
 - 母子感染によるものは0件
 - 年齢別では、特に20～30代が多い。
2. 新規AIDS患者：
 - 同性間性的接触によるものが239件（全AIDS患者報告数の約54%）
 - 異性間性的接触によるものが110件（全AIDS患者報告数の約25%）
 - 静注薬物によるものは3件（ほか、その他に計上されているものが6件）
 - 母子感染によるものは0件
 - 年齢別では、特に30歳以上が多い。なお、60歳以上が約10%を占めている。

【検査・相談件数の概況（平成24年1月～12月）】

1. 保健所等におけるHIV抗体検査件数（確定値）は131,235件で過去5位（過去最高は平成20年177,156件）
2. 保健所等における相談件数（確定値）は153,583件で過去8位（過去最高は平成20年230,091件）

《まとめ》

1. 平成24年の新規HIV感染者報告数は1,001件、新規AIDS患者報告数は445件であり、HIV感染者とAIDS患者報告数の累計は同年内に2万件を超えて21,422件となった。
2. 平成24年は平成23年と比較して、
 - ・速報値ではあるが、新規HIV感染者報告数、新規AIDS患者報告数ともに減少した。
 - ・保健所等におけるHIV抗体検査件数はほぼ横ばいであり、相談件数は大きく減少した。
 - ・保健所等におけるHIV抗体検査件数に対する陽性件数は横ばいであった。
 - ・速報値ではあるが、献血における10万件当たりの陽性件数は減少傾向であった。
3. 経年傾向として、新規HIV感染が増加しているというデータはなく、新規の感染については横ばいとなっている可能性がある。
4. 一方で、保健所等における相談件数が減少していることから、社会のHIVへの関心の低下が懸念される。
5. また、新規HIV感染者・AIDS患者報告数に占めるAIDS患者報告数の割合は依然として30%を超えたまま推移しており、検査が未だ十分行き届いていないと考えられる。国民の皆様には、積極的に検査を受けていただきたい。自治体におかれては、エイズ予防指針を踏まえ、引き続き利便性に配慮した検査相談体制を推進していただきたい。